

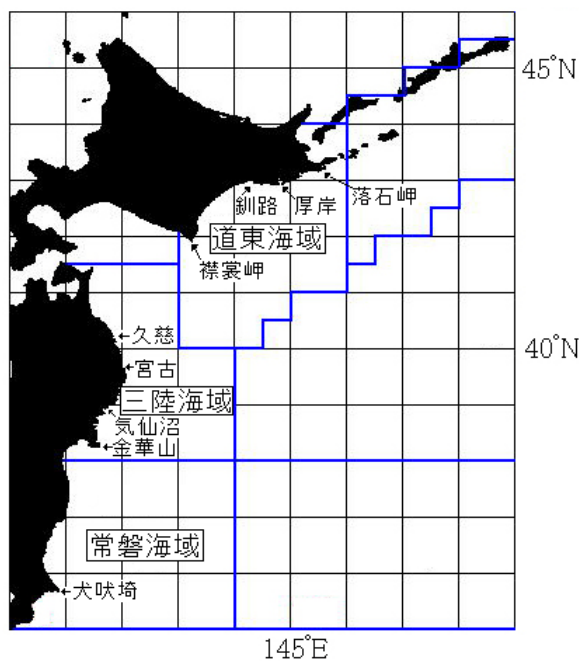
平成24年度 第9回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2012年12月上旬～下旬)のポイント

来遊量

- ・三陸海域では、12月上旬は断続的となり終漁となる。
- ・常磐海域では、来遊量は減少し、12月上旬～中旬は低位水準となる。



海域の名称

問い合わせ先

社団法人漁業情報サービスセンター 事業二課

担当：渡邊、松尾

電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

独立行政法人水産総合研究センター

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

平成24年度 第9回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2012年12月上旬から12月下旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

来遊量は少なく、終漁。

(2) 漁場

漁場は形成されない。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

来遊量は減少し、12月上旬は断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場

12月上旬の主漁場は、三陸南部となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

来遊量は減少し、12月上旬～中旬は低位水準となる。12月下旬は断続的となる。

(2) 漁場

12月上旬は、常磐北部～南部に漁場が形成される。12月中旬～下旬は、常磐南部に漁場が残る。

2. 予測の概要

海 域		12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量			
	動向			
	漁 場			
三陸海域	来遊量			
	動向	----->		
	漁 場	南部		
常磐海域	来遊量			
	動向	----->	----->	----->
	漁 場	低位減少	低位水準	断続的
	漁 場	北部～南部	南部	南部

3. 漁況の経過概要（11月中旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

道東海域では、来遊量は前年を下回り、漁場は形成されなかった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した三陸海域における来遊量の水準は、前旬および前年を下回り、低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、来遊量は徐々に減少した。

(2) 漁場

主漁場は、宮古～気仙沼沖であった。

宮古東～気仙沼東南東の10～30海里付近（15～17℃）では、大型船が数隻～30隻程度と小型船が操業した。大型船で最高100トン以上、平均37トン程度漁獲した。

(3) 魚体

体長23cmモードの小型魚と27cmモードの中型魚主体。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した常磐海域における来遊量の水準は、前旬を上回り、中位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、来遊量は期半ばにやや減少したが、その後増加した。

(2) 漁場

主漁場は、那珂湊～犬吠埼沖であった。

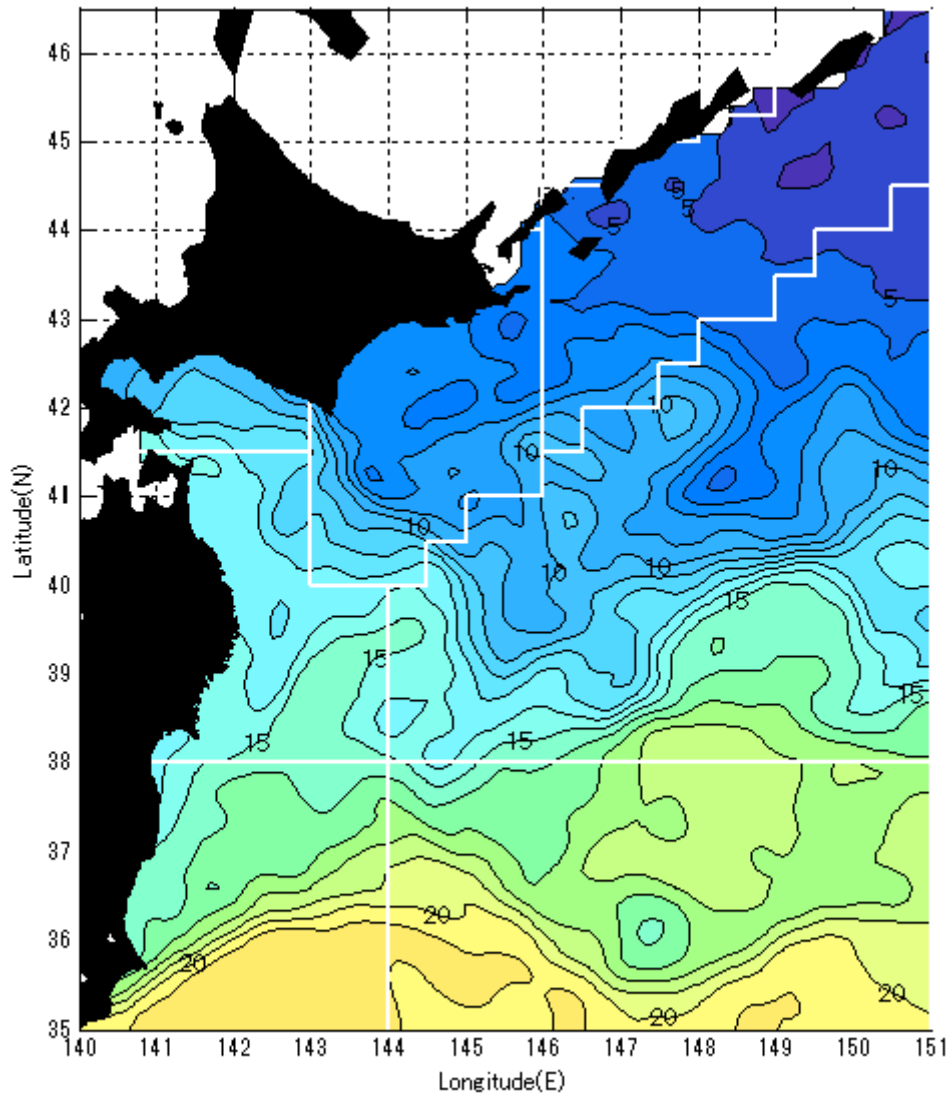
那珂湊東北東30海里～犬吠埼東30海里付近（17～19℃）では、連日、大型船が10～40隻程度操業した。最高120トン程度、平均39トン程度漁獲した。

(3) 魚体

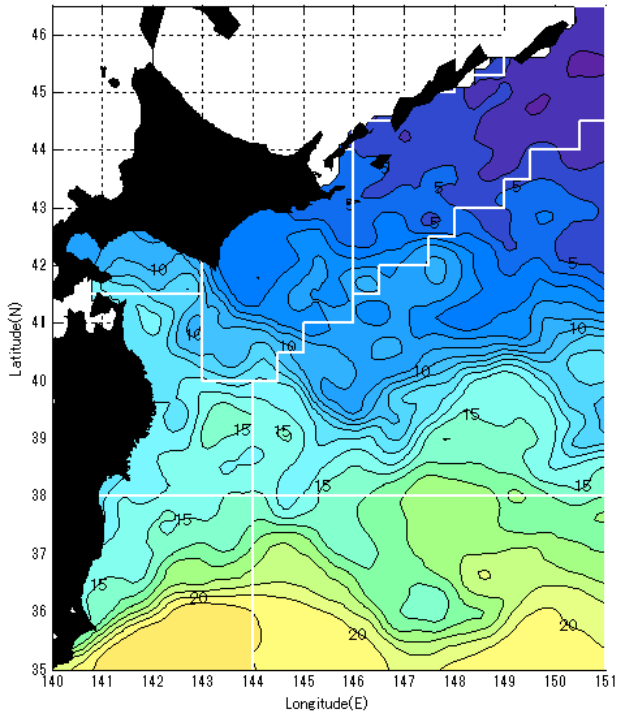
体長30cmモードの大型魚主体で、28cmモードの中型魚が混じる。大型魚の体重は、110～130g台主体。

4. 予測水温分布図

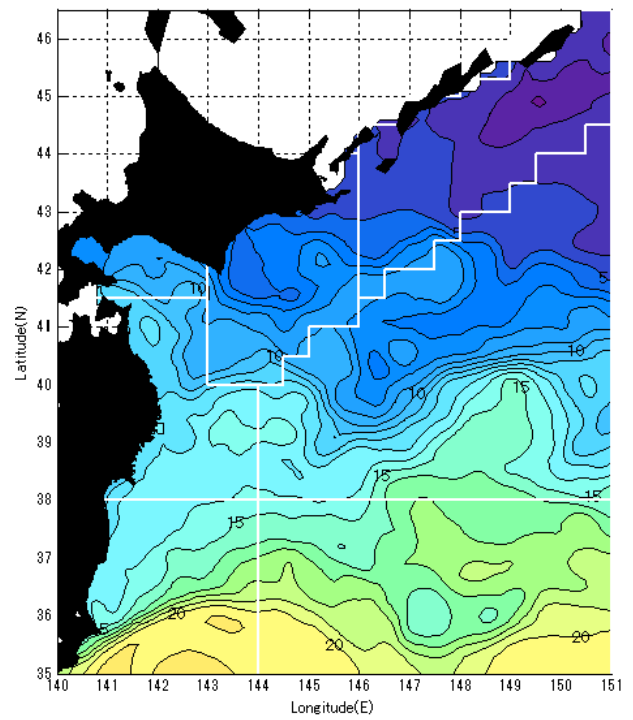
12月上旬予測表面水温分布図



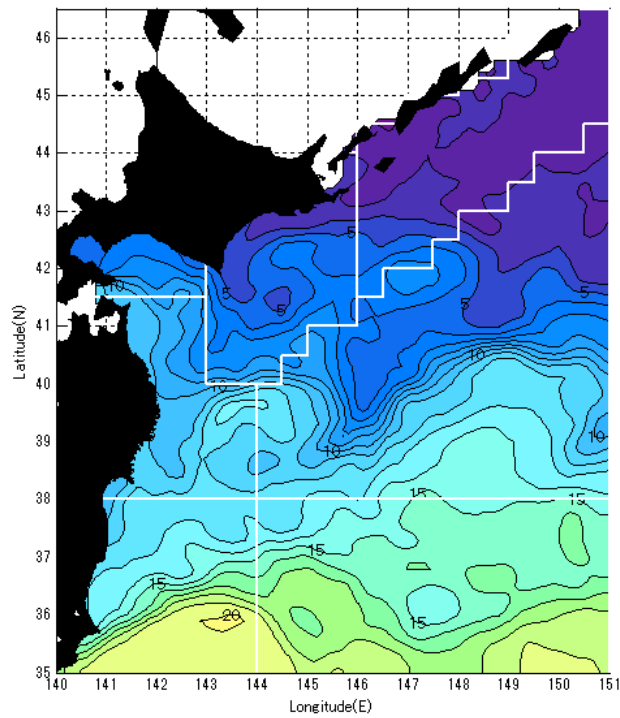
12月中旬予測表面水温分布図



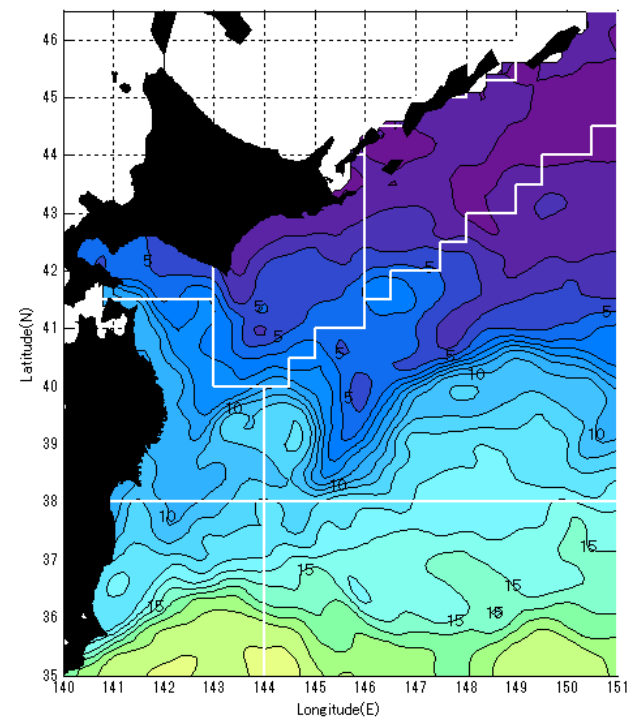
12月下旬予測表面水温分布図



1月上旬予測表面水温分布図



1月中旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	--